

川西の子どもたちは、がんばっています！

～全国学力・学習状況調査の結果を受けて～

本年度より、「全国学力・学習状況調査」が全国的に実施されることになりました。本調査の目的は、

- ①全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況等を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること
- ②各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図り、併せて児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげること

であり、国語と算数・数学という一部の教科でしたが、上記の目的にあるように、全国的な状況との関係において、本市の教育施策の成果と課題、学校における指導の実際について、評価・検証する機会の一つとしてとらえ、本市におきましても参加しました。その概要は、以下のとおりです。

平成19年度全国学力・学習状況調査実施概要（川西市）

1. 調査対象

- (1) 市内全小学校第6学年・特別支援学校小学部第6学年の児童
- (2) 市内全中学校第3学年・特別支援学校中学部第3学年の生徒

2. 調査内容

(1) 小学校第6学年

- ①実施教科等 「教科に関する調査（国語、算数）」、「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」
- ②実施日 平成19年4月24日（火）
- ③実施時間 国語A（20分）、算数A（20分）、国語B（40分）、算数B（40分）、児童質問紙（40分）
- ④実施人数 1406名

(2) 中学校第3学年

- ①実施教科等 「教科に関する調査（国語、数学）」、「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」
- ②実施日 平成19年4月24日（火）
- ③実施時間 国語A（45分）、国語B（45分）、数学A（45分）、数学B（45分）、生徒質問紙（40分）
- ④実施人数 1161名

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数・数学A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数・数学B〕
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容 など

「では、川西の子どもたちの学力は、どうなのか?」「成果と課題に対する改善方策は?」というご心配が、保護者のみなさまを含め市民のみなさまにはあるかと思われます。

川西の子どもたちは、全国（公立）平均と比べて同程度（全国平均正答率と比較した±5ポイント範囲内）であり、全国的な状況との関係において良好な結果であったと受け止めています。

また、以下のとおり、小・中学校の国語、算数・数学ともに、『知識に関すること』については、「相当数の児童生徒が今回出題している学習内容をおおむね理解している」と考えられますが、『活用に関すること』については、「知識・技能を活用する力をさらに身に付ける必要がある。」という、全国平均と同様の傾向が明らかになりました。

全国的な状況との関係において、良好な結果でした

全国平均（公立）

小学校	国語A	国語B	算数A	算数B
	81.7%	62.0%	82.1%	63.6%
中学校	国語A	国語B	数学A	数学B
	81.6%	72.0%	71.9%	60.6%

- 小学校国語A（知識）については、相当数の児童が今回出題している学習内容をおおむね理解していると考えられる。
- 小学校国語B（活用）について、知識・技能を活用する力に課題がある。
- 小学校算数A（知識）については、相当数の児童が今回出題している学習内容をおおむね理解していると考えられる。
- 小学校算数B（活用）について、知識・技能を活用する力に課題がある。



- 中学校国語A（知識）については、相当数の生徒が今回出題している学習内容をおおむね身に付けていると考えられる。
- 中学校国語B（活用）については、知識・技能を活用する力をさらに身に付ける必要がある。
- 中学校数学A（知識）については、基礎的・基本的な知識・技能をさらに身に付けさせる必要がある。
- 中学校数学B（活用）については、知識・技能を活用する力に課題がある。



今回の調査における平均正答率の評価について（文部科学省による）
 平均正答率 80%以上・・・学習内容をおおむね理解している。
 平均正答率 70%以上 80%未満・・・学習内容をさらに身に付ける力が必要である。
 平均正答率 70%未満・・・学習内容を身につける上で課題がある。

市内全体の状況を表す平均正答率等、序列化につながるおそれのあるものについては、公表いたしません。それは、平均正答率をはじめとする数値の公表は、各校の序列化や過度な競争につながるおそれがあり、今後継続実施する予定である調査の適正な遂行に支障を及ぼすおそれがあると判断したからです。（文部科学省 平成19年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領に因ります）ご理解をお願いいたします。

以下では、市内小学校第6学年児童及び市内中学校第3学年生徒の傾向として分析したものの一部をお知らせいたします。

小学校国語では・・・

「言語事項」に関して、漢字の読み書き、接続語の使い方、指示語が示す内容については、相当数の児童が理解できていました。

指導改善のポイントとしては、文の構成についての理解の定着を図るために、2つの内容を1文にまとめたり、1文を内容ごとに分けて書き換えたりする言語活動の充実を図る指導が必要です。

また、「話すこと・聞くこと」に関して、話し方に関する知識（聞き手の反応を確かめながら話すこと）や聞き方に関する知識（要点をメモに取りながら聞くこと）の理解に課題があります。

指導改善のポイントとしては、聞き手の反応を見て調整しながら話したり、話の要点のメモを取りながら聞いたりするなどの具体的な言語活動を取り入れ、これを通じて、話すこと・聞くことに関する知識・技能を定着させる指導の充実が必要です。



「漢字の読み書き」は、高い正答率 で、基礎学力の定着が伺えます

- ㊦
- 一次の文の__線部の漢字をひらがなに直して書きましょう。
(1) リーダーとして勝利に導く。
 - 二次の文の__線部のひらがなを漢字に直して、ていねいに書きましょう。
(3) 魚を釣く。

「学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を正しく読み、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく書くことができるかどうか」をみる問題です。第5学年までに学習した漢字を文脈に沿って適切に読み、正しく書くことを求められています。正答は、「みちび(く)」「焼(く)」です。

川西市立小学校第6学年児童のほとんどが、正しく解答していました。

文脈に合わせて、漢字を正しく読んだり書いたりすることができるようにするためには、漢字に対する興味・関心を高め、漢字が果たしている役割や働きを押さえながら、文脈に即して適切に漢字を使うようにすることが必要です。

また、学習した漢字を使った様々な語句を知り、語彙力を高めることが重要です。学習した漢字が日常生活の中でどのように使われているか調べさせるなど、児童の興味・関心を高めながら語彙の拡充を図ります。手許に辞書を置き、積極的に使えるようにするなど、調べる習慣が付くことで、言葉への関心が高まり、難語句の理解や漢字の定着に役立ちます。



分かりやすいスピーチをするためには・・・

- ㊦ 自分の一年間の目標を、学級でスピーチすることになりました。聞き手に分かりやすい話し方として、ふさわしいものを次の1から5までの中から二つ選んで、その番号を書きましょう。
- 聞き手が話の内容に集中できるように、間をおかずに続けて話す。
 - 話が伝わっているかどうか、聞き手の表情を確かめながら話す。
 - 聞き手に内容がよく伝わるように、最初から最後まで同じ調子で話す。
 - 聞き手によく聞こえるように、場に応じた声の大きさではっきり話す。
 - 聞き手にたくさんのことを伝えたいので、できる限り早口で話す。

「聞き手にとって分かりやすいスピーチをするために、音声の面から話し手が気をつけることを理解しているかどうか」をみる問題です。正答は、「2」と「4」の二つです。

川西市立小学校第6学年児童の回答は、「2」と「4」の二つを解答しているものが約半数で、それ以外は、どちらか1つだけを解答していたものか無解答のものでした。

話し方に関する知識（聞き手の反応を確かめながら話すこと）とは、具体的には、聞き手を意識したスピーチを行う場合に必要とされる音声面の観点として、①間、②聞き手の表情や反応、③調子・転調、④声量、⑤速さなどがあります。これらの観点を、相手や目的、条件や状況等に応じて工夫することが必要です。

この「聞き手の反応を確かめながら話したり、話の要点のメモを取りながら聞いたりするなどの具体的な言語活動を取り入れ、これを通じて、話すこと・聞くことに関する知識・技能を定着させる指導の充実を図る必要があります。

小学校算数では・・・

「数と計算」に関して、整数、小数、分数の四則計算は、相当数の児童ができていましたが、数の意味と大きさの理解・問題文から式を考えること・計算の工夫を理解し、その計算方法を説明することには課題がありました。

指導改善のポイントとしては、様々な数を数直線上に表す活動など、数の意味や大きさを調べたり表したりして理解する活動、簡単な数に置き換えて式を考える活動、工夫して立式する活動、数を多面的に見て（ $100=25\times 4$ など）計算の工夫を考える活動などを充実させた指導が必要です。

「図形」に関して、三角形や平行四辺形の性質を理解し、角の大きさを求めたり作図したりすることは、相当数の児童ができていました。子どもの思考の流れを大切に活動は今後も継続して重視します。



分数の減法等「四則計算」も非常に高い正答率で、がんばっています

㊦ 次の計算をしましょう。

- | | |
|---------------------|--------------------|
| (1) $28+72$ | (2) 27×3.4 |
| (3) 9.3×0.8 | (4) $12\div 0.6$ |
| (5) $1-5/8$ | (6) $3/7+4/7$ |
| (7) $6+0.5\times 2$ | |

「整数、小数、分数の計算、四則の混合した計算をすることができるかどうか」をみる問題です。

正答は、(1) 100 (2) 91.8 (3) 7.44 (4) 20 (5) $3/8$ (6) 1または $7/7$ (7) 7です。

川西市立小学校第6学年児童のほとんどが、(1)～(7)まで、それぞれの意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、適切に用いることができていました。

(2) 小数の乗法「(整数)×(小数)」については、(整数)×(整数)の計算技能、乗数が小数であることに着目した小数点の移動が、(3)については、(整数)×(整数)の計算技能、被乗数と乗数とが小数であることに着目した小数点の移動が求められます。

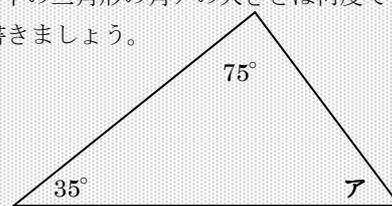
(4) 小数の除法「(整数)÷(小数)」については、「被除数と除数に同じ数をかけても商は変わらない」という除法について成り立つ性質を正しく用いることが求められます。

(5) 同分母の分数の減法については、減数の分母に着目して被減数1を適切に分数に表すことが求められます。

(7) 加法と乗法の混合した整数と小数の計算では、乗法を加法より先に計算するという計算の順序についての決まりを理解していることが求められます。

㊦ 次の問題に答えましょう。

(1) 下の三角形の角アの大きさは何度ですか。答えを書きましょう。



(2) 略

「三角形の

三つの角の大きさの和は180°」

「基本的な平面図形の性質について理解しているかどうか」をみる問題です。正答は、70°です。

三角形の三つの角の大きさの和についての知識は、四角形や多角形の角の大きさの和を求める上で必要な内容です。

(1)の問題は、三角形の三つの角の大きさの和が180°であることを理解しているかどうかをみるものです。

与えられている二つの角の大きさ(75°と35°)から、角アの大きさを $180-(75+35)=70$ と求めます。

川西市立小学校第6学年、相当数の児童が、正答を導いていましたが、「75°」「80°」といった、180°という根拠を押さえていない解答もありました。

三角形の三つの角の大きさの和が180°であることを理解できるようにするためには、「いろいろな三角形を作図して角の大きさを測定することで、三つの角の大きさの和がいずれも180°になることに気付かせる、作業的・体験的な算数的活動が有効です。

中学校国語では・・・

「話すこと・聞くこと」に関しては、聞き手を意識して使用する語句を工夫することや不足している情報を適切な表現で話し手に確かめることは、相当数の生徒ができていました。

指導改善のポイントとしては、目的に沿って話したり、適切に聞き取ったりする力を身に付けるために、具体的な場面を設定した実践的な言語活動を今後も継続して重視します。

「読むこと」に関して、文章全体の内容や表現の特徴についておおまかに読み取ることは、相当数の生徒ができていましたが、情景描写を書き手の工夫に着目して的確に読み取ることや、文章の展開や心情の変化に着目して、工夫しながら朗読することに課題がありました。

指導改善のポイントとしては、文学的な文章の描写や表現に注意して内容をとらえる言語活動の充実を図ったり、社会生活に役立つ読む能力を身に付けるために、様々な文章の内容や構成、表現に注意しながら的確に読み取ったり、情報を活用したりする言語活動を工夫したりする指導が必要です。

**比喻について注意して読み取る
問題に対しても、相当数の生徒
ができています**

㊦ 文学的な文章を読む

(長野まゆみ「兄弟天気図」による)

一 略

二 この文章に描かれた場面と表現についての説明として、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 暗がりに浮かぶせせらぎの様子を、様々な色彩を用いて表現している。
- 2 闇の中に浮かぶせせらぎの様子を、水の音だけで巧みに表現している。
- 3 月あかりに照らされたせせらぎの様子を、比喻を用いて表現している。
- 4 ひっそりと流れるせせらぎの様子を、手の感触によって表現している。

文学的な文章を読むために必要な力、すなわち、文脈における語句の意味や自然描写を的確にとらえたり、表現技法を理解したりする力を問う問題です。

正答は「3」です。

川西市立中学校第3学年の、相当数の生徒が、(2) 比喻等の表現技法に注意して、正しく解答できていました。

文学的な文章を読む際には、文章中で用いられている言葉について、辞書的な意味の理解のみにとどまらず、その文脈の中でどのような意味を持っているのか考えながら読むことが大切です。そのためには、語句の意味について話し合うような学習活動も効果的です。

**実際に手紙文を書くことを通して、
手紙の形式・時候のあいさつなどを
学びましょう**

㊦ 手紙を書く

一 手紙の頭語について理解しているかどうかをみる問題

「敬具」という結語から、ふさわしい頭語は？

二 手紙の主文の書き出しの語について理解しているかどうかをみる問題

前文から本題に転換するための接続詞は？

三 手紙の後付けについて理解しているかどうかをみる問題

手紙の後付けとして、日付、差出人の氏名、宛名の最適な配置は？

「手紙を書くために必要な知識が定着しているかどうか」をみる問題です。

頭語・結語、主文、後付けなどの手紙の形式について理解することが必要です。また、時候のあいさつなどについても必要です。その際、

日常生活と関連付けて相手意識や目的意識を明確にすることに留意することも大切です。実際に、手紙文を書くことを通して、学んでいきましょう。



中学校数学では・・・

「数と式」に関して、指数を含む計算、式の値を求めること、一元一次方程式を解くことは、相当数の生徒ができていましたが、文字式が表す意味の理解や方程式における移項の意味の理解や、結論が成り立つことを説明するために必要な条件を示すことに課題がありました。

指導改善のポイントとしては、文字式が表す意味を具体的な事象に即して理解する活動や、移項による解き方と等式の性質を使った解き方とを対比するなど移項の意味を理解する活動を重視する指導が必要です。また、結論が成り立つ理由を説明するためには何が必要かを逆向きに考えるなどして、見通しをもって説明を構想する活動の充実を図る指導が必要です。

「図形」に関して、基本的な平面図形の性質の理解については、相当数の生徒ができていました。実験や実測を通して、実感を伴って図形の性質を理解する活動を今後も継続して重視します。

指数を含む計算などは、高い正答率でした

㊦ 次の(1)から(4)までの各問いに答えなさい。

- (1) $2 \div 3 \div 5 \div 7$ を計算しなさい。
- (2) 下のアからオの中から、一番小さい数を1つ選びなさい。
ア $1/3$ イ 0 ウ -2 エ 4 オ $-1/2$
- (3) $2 \times (-3)^2$ を計算しなさい。
- (4) $8 - 5 \times (-6)$ を計算しなさい。

「分数の除法の計算や、正の数と負の数の四則計算ができるかどうか、正の数と負の数の大小関係を理解しているかどうか」をみる問題です。

正答は、(1) $14/15$ (2) ウ (3) 18 (4) 38 です。

川西市立中学校第3学年、相当数の生徒が、(1)～(4)までについて正答を導いていました。

(1) では、除法を乗法に帰着して計算することが求められます。

(2) では、負の数は絶対値が大きくなるほど小さくなることを理解していることが求められます。

指数を含む計算(3)では、指数の計算を先にすることを理解し、 $(-a)^2 = (-a) \times (-a)$ と正しく計算できることが求められます。

(4) では、数を正の数と負の数にまで拡張した場合も、乗法を先行するなどの計算の順序を理解していることが求められます。

計算技能の確実な定着については、数を正の数と負の数にまで拡張した場合で、分数の計算など、これまでの学習内容を振り返り、計算の意味、計算の仕方や手順を理解できるようにすることが大切です。

㊧ あるサッカー大会では、5チームが他の全てのチームと1回ずつ試合をし、下の表のような結果になりました。この大会では、次のようにして順位が決められました。(※表は略)

[順位の決め方] 1試合ごとに勝ったチームに3点、負けたチームに0点、引き分けると両チームに1点ずつ与え、合計点数の多いチームを上位として順位を決める。

(1) 順位の決め方にしたがうと、Rチームの合計点数は何点になりますか。

小学校での基礎が

しっかりしていることが大切!

「表により与えられた数値や情報をよみとり、与えられた情報を的確に処理することができるかどうか」をみる問題です。

(1) は、与えられた[順位の決め方]にしたがい、あるチームの合計点数を試合結果から求める問題です。ここでは、与えられた情報をよみとり処理することが求められています。(勝った試合数) \times (3点)、(引き分けた試合数) \times (1点)をもとに、Rチームの合計点数を求めると、正答は、「 $3 \times 2 + 1 \times 2 = 8$ 8点」となります。

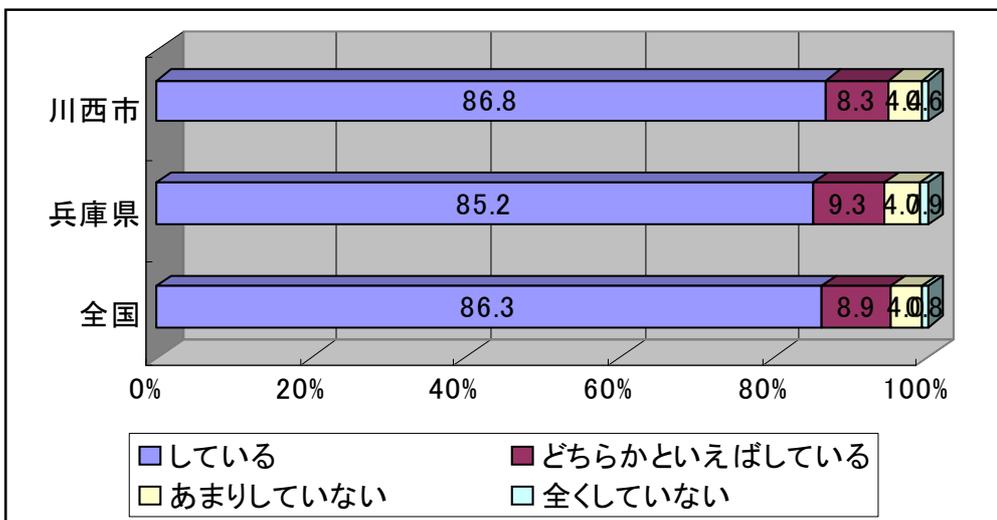
川西市立中学校第3学年の、相当数の生徒が、正答を導いていました。

小学校での学習の基礎がしっかり身につけているのではと思われます。学習指導要領における内容・領域では、「小学校第4学年D数量関係(3)「目的に応じて資料を集め、分類整理したり、特徴を調べたりすることが出来るようにする。」が、この問題の基礎になります。

小学校「児童質問紙」(生活習慣や学習環境等に関する調査)から、川西の小学生の表れの一面がわかります。(数字は設問番号)

朝食しっかり食べています

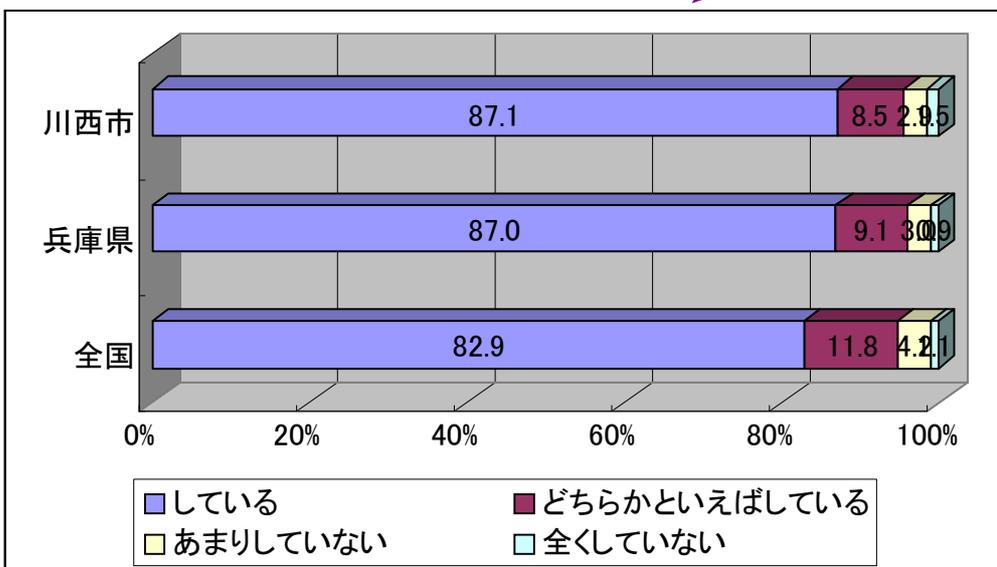
(1) 朝食を毎日食べていますか



※ 朝食を毎日食べている児童の割合は、川西市は86.8%、兵庫県は85.2%、全国は、86.3%でした。全く食べていない児童の割合は、川西市は0.6%、兵庫県は0.9%、全国は0.8%でした。

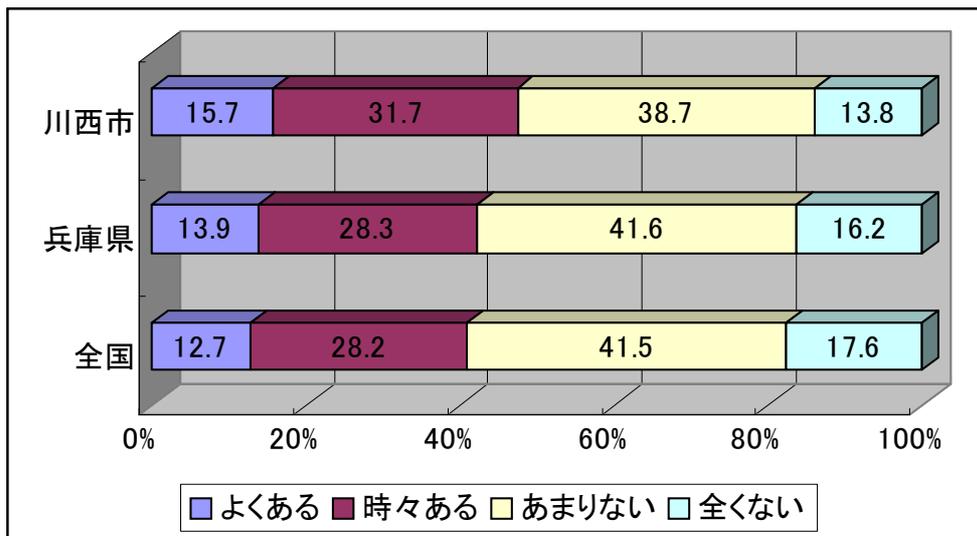
宿題も、きちりやっています

(32) 家で学校の宿題をしていますか



※ 家で学校の宿題をしている児童の割合は、川西市は87.1%、兵庫県は87.0%、全国は、82.9%でした。全くしていない児童の割合は、川西市は1.5%、兵庫県は0.9%、全国は1.1%でした。

(3 1) 家の人や学校の先生以外のおとなの人から注意されたことがありますか



おとなの人にも、支えられています

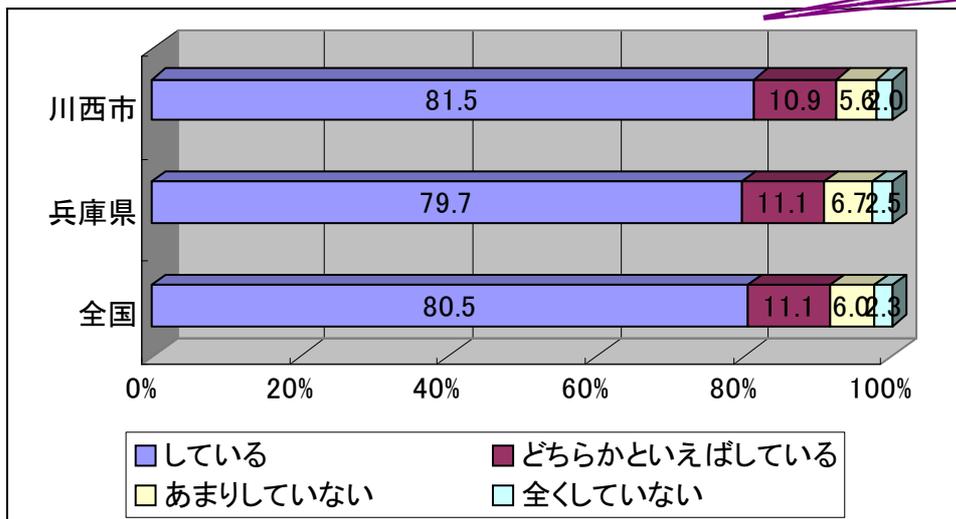


※ 家の人や学校の先生以外のおとなの人から注意されたことがある児童の割合は、川西市は47.4%、兵庫県は42.2%、全国は40.9%でした。全くない児童の割合は、川西市は13.8%、兵庫県は16.2%、全国は17.6%でした。

中学校「生徒質問紙」(生活習慣や学習環境等に関する調査)から、川西の中学生の表れの一面がわかります(数字は設問番号)。

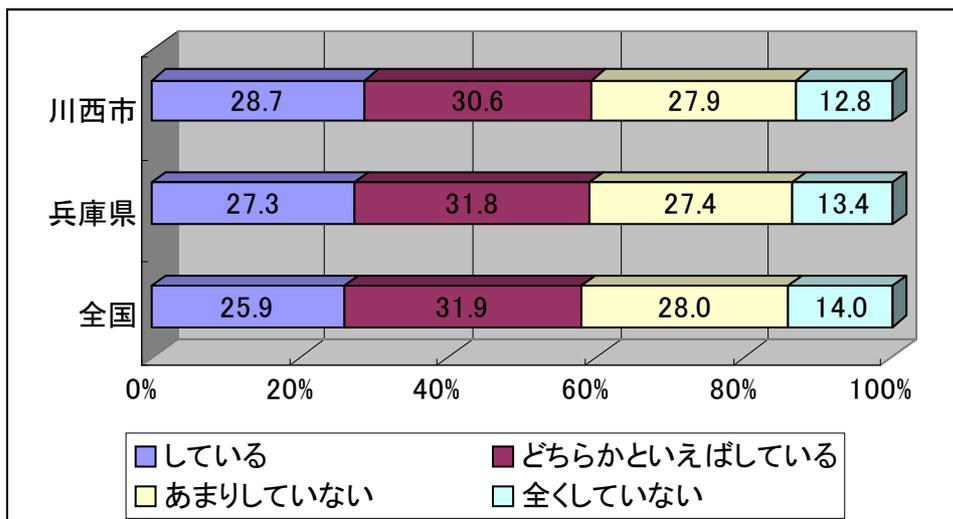
中学生も、しっかり食べています

(1) 朝食を毎日食べていますか



※ 朝食を毎日食べている生徒の割合は、川西市は81.5%、兵庫県は79.7%、全国は80.5%でした。全く食べていない生徒の割合は、川西市は2.0%、兵庫県は2.5%、全国は2.3%でした。

(28) 家の人と学校での出来事について話をしていますか

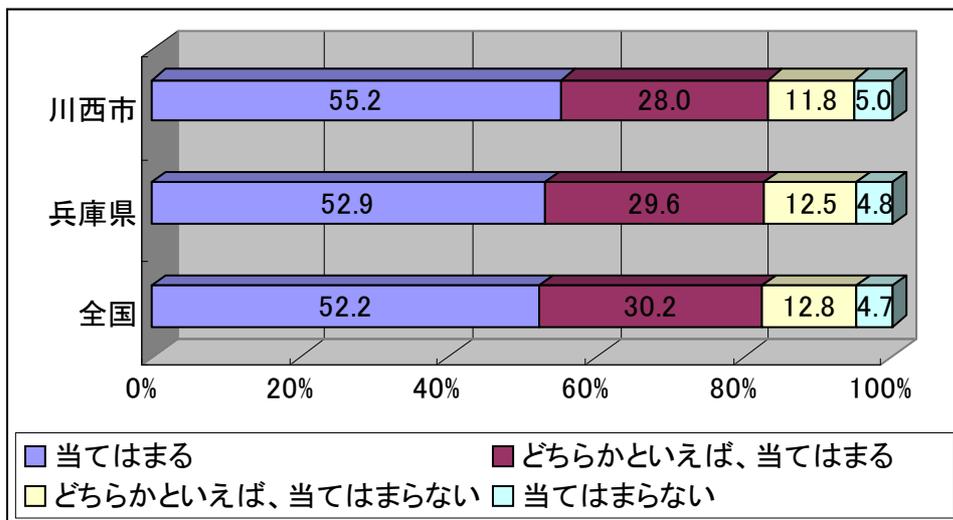


※ 家の人と学校での出来事について話をしている生徒の割合は、川西市は59.3%、兵庫県は59.1%、全国は57.8%でした。全くしていない生徒の割合は、川西市は12.8%、兵庫県は13.4%、全国は14.0%でした。

あのね、今日、学校でね・・・

「いってきます」
「いってらっしゃい」

(49) 近所の人に出会ったときは、あいさつをしていますか



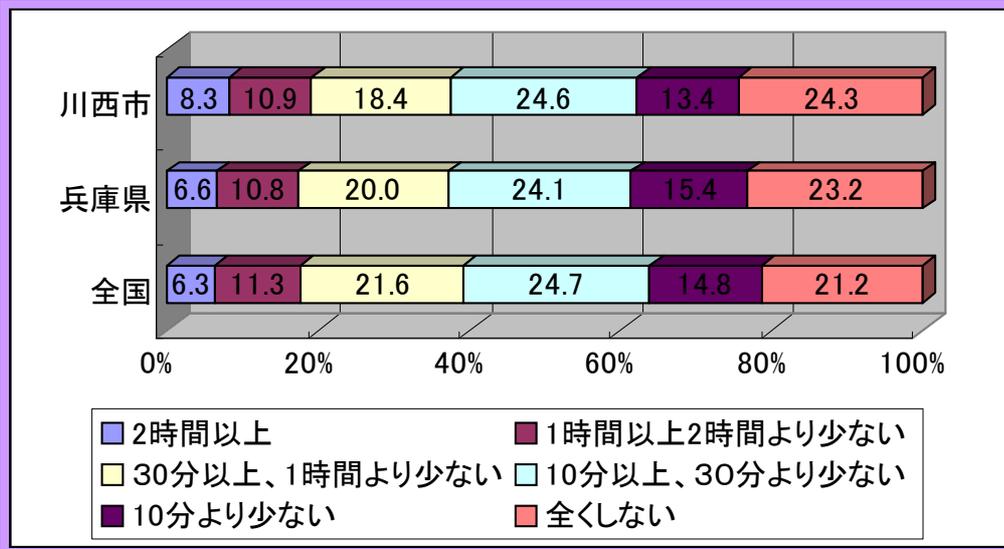
※ 近所の人に出会ったときは、あいさつをしている生徒の割合は、川西市は83.2%、兵庫県は82.5%、全国は82.4%でした。あいさつをしていない生徒の割合は、川西市は16.8%、兵庫県は17.5%、全国は、17.6%でした。

また、「生活習慣や学習環境等に関する調査」結果と学力との関係には・・・

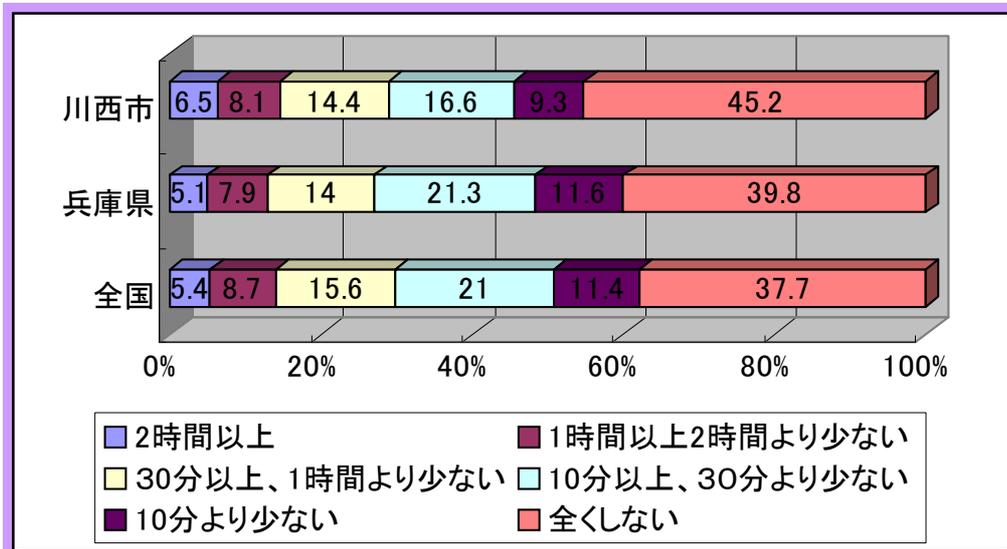
(23)「家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、読書をするか」

1日に30分以上、読書する人は・・・

《小学校》



《中学校》

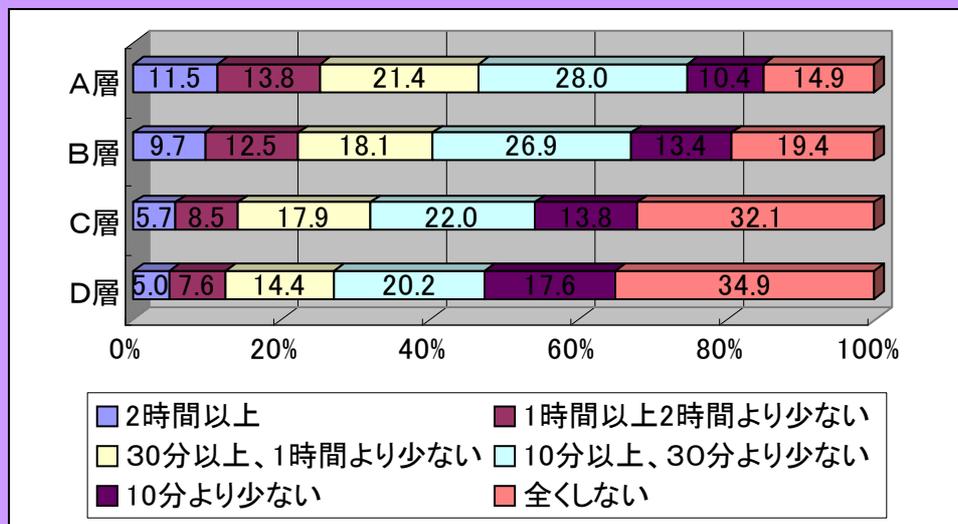


小学校では、1日に30分以上読書をする回答した児童の割合は、全国が39.2%、兵庫県が37.4%川西市が37.6%になっています。
中学校でも同様に、1日に30分以上読書をする回答した生徒は、全国が29.7%、兵庫県が27.0%、川西市が29.0%になっています。



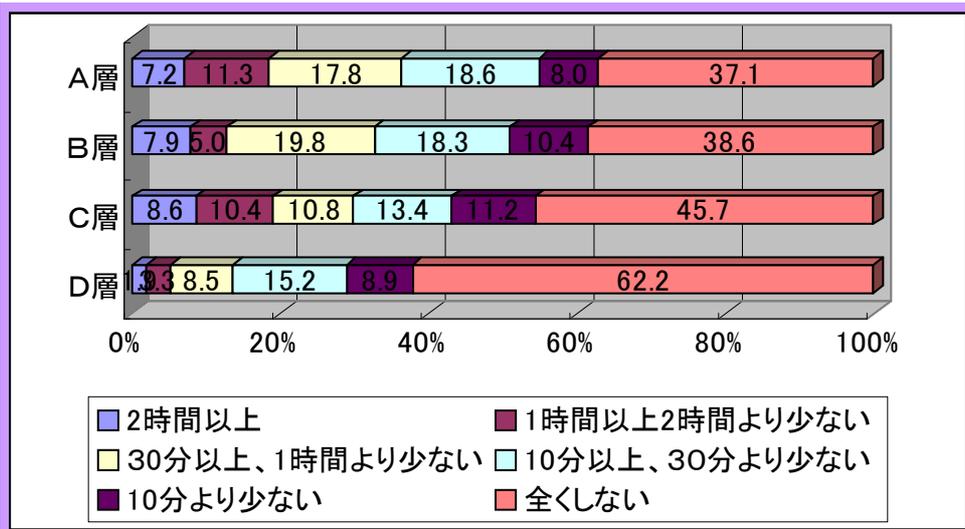
また、左記の質問と、国語Bの正答数との相関関係を調べてみると、以下のようになります。

《小学校》



読書時間が長い
児童生徒の方
が、国語「活用」
の学力が高い！

《中学校》



※A～D層について

各層は児童生徒を正答数の大きい順に整列し、人数比率により25%刻みで4つの層分けを行っている。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称する。

小学校、中学校ともに読書時間が長い児童生徒の方が、国語B「活用に関すること」の学力が高い傾向がみられます。

この傾向は、国語A「知識に関すること」でも同様の傾向があり、また算数・数学という他教科においても同様の傾向がみられます。

このデータから、知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などは、読み取りの力との関連が強く、子どもの成長には、読書教育の推進が必要であることが明らかになりました。

学校の先生も、教育委員会も、がんばります。

本市教育委員会としましては、11月1日「川西市基礎学力向上検討委員会」を設置しました。

文部科学省より提供されました情報を分析することを通して、「川西の子どもたちは、国語や算数・数学のどの領域の理解がよいのか、課題があるのか?」「その課題に対する改善には、どのような方策が必要か?」「学力と生活習慣との相関関係は?」ということを検討しているところです。

川西市基礎学力向上検討委員会とは・・・

川西市立学校に通学する児童生徒の基礎的・基本的な学力の向上等を図るため、設置したものです。学識経験者、学校関係者、教育委員会事務局職員で構成し、「全国学力・学習状況調査の結果に関すること」「授業改善・学習習慣の定着等児童生徒の学ぶ意欲の向上に関すること」「家庭及び地域の教育力の向上に関すること」「学校支援体制の整備に関すること」等について検討しています。

検討されたことをもとに、市内学校における教育活動にいかしていきたいと考えています。

ご家庭でも・・・地域でも・・・。

学習状況に関する調査結果と正答数の相関関係について、前ページの「読書時間が長い児童生徒の方が、正答率が高い傾向がみられる」と同様に、小中学校ともに、「家で学校の宿題をする児童生徒」「朝食を毎日食べる児童生徒」「学校に行く前に持ち物を確認する児童生徒」「家の人と学校での出来事について話をする児童生徒」「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒」「学校のきまり・規則を守っている児童生徒」の方が、正答率が高い傾向がみられます。

ご家庭におかれましても、子どもたちの成長を支えていただきたいと思います。



今回は、本年度「全国学力・学習状況調査」本市調査結果の一部についてのみ、お知らせをいたしました。今後、このほかの調査結果について、また生活面と教科に関する調査結果との関連を把握し、分析することで、「ときめく川西の未来」を担う子どもたちの基礎学力向上に向けて、よりよい家庭教育・地域（社会）教育・学校教育のあり方を模索するヒントになるものと思われれます。

分析により明らかになったことをもとに、2月末を目途に「川西市基礎学力向上検討委員会報告書」としてまとめ、市教育委員会として、ご家庭や地域・学校に対して提案するとともに、よりよい教育活動・教育環境づくりをめざしていきたいと考えております。

川西の子どもたちにとって、豊かな学びを推進できるよう取り組んでまいります。ご理解・ご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

平成19年12月14日発行

川西市教育委員会 教育振興部 学校教育室 TEL 072-740-1254